



みどりの風

令和3年9月30日発行
校報 589号
(みどりの風 132号)
練馬区立関町北小学校

全ての児童の人権を尊重し、「我が子同然」との思いを共感していくために

校長 吉川文章

日頃から子供たちの健康安全のためにご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。緊急事態宣言明けの節目に際して、以下の内容についての共通理解をお願いいたします。

現在まで、本校からメールなどでコロナ陽性のお知らせをすることはありません。感染防止の保護者の皆様のご協力のおかげと感謝しております。しかしながら、この感染症については、どのような対策を講じても100%防げるものではないことも事実です。各学校・園等では感染が判明しメールを送信した際に、「憶測や詮索」が飛び交い、「誹謗中傷」によって当事者のご家族が傷つくという状況が少なくありません。

関町北小では、いついかなる時にも全ての児童、保護者の方を「我が子、家族同然」との思いを貫く学校として全ての人権に寄り添っていきましょう。これからも感染防止を徹底することは無論です。しかし、もしもの際にも、決して動じることなく向き合うことも同じくらい大切です。「**仮に陽性者が出た場合**」のお知らせとあわせて、**全ての保護者の皆様に送付をする予定の「メール案文（四角囲み）」をお読みいただき「学校の理念」を共有いただければ幸いです。**

お子さまが安心して学校生活を送れるよう、「チーム関北」として学校全体で支援をまいります。そのためにも特に大切なこととして以下の内容への共通理解をお願いいたします。

お知らせをしたことに関して、誰が陽性者や濃厚接触者となったのかを詮索したり、話題にしたりすることが決してあってはなりません。ご家族が誹謗にさらされることが決してあってはなりません。

ご家族、保護者の方が愛し子をどんなに心配をしておられるか、お子さんがどのような不安をもち治療を受けているか、不安な気持ちをもち家庭で日々の生活を送っているかを、関北に勤める全ての教職員、関北に通う全ての児童、保護者が「我が家族のこと」と受け止め、ご家族の立場や心情に寄り添っていくことが最も重要と考えております。

加えて、コロナウイルスは、どのような感染防止策を講じても100%感染を防ぐことはできません。言いかえるならば、全ての人が罹ったとしても全く不思議ではないものです。そのことについての当事者意識（自分が罹った場合、どのような気持ちになるのか）を高める機会とも考えております。

校長のわたくしからは、全校に向けて、陽性となったご家族、濃厚接触となったご家族、特に本校の大事な「仲間」の心に寄り添う「チーム関北」であるよう、講話をすると共に、全ての学級でも指導を行います。

保護者の皆さまにおかれましても、人権への配慮と個人情報保護につきまして、共通理解と共感をしていただき「ピンチや課題をむしろ絶好の機会ととらえてポジティブに前を向くチーム関北」として、前向きにこのことを乗り越えていきましょう。このことにより、「他者に寄り添う気持ちがいっそう高まる」機会としていきましょう。

たとえコロナの感染や不測の事態などが生じたとしても、動じず前を向き、互いの人格を尊重し合いやるべきことを「斉一的（当たり前のことを例外なく全員で）」に取り組む関北の教職員、子供たち、保護者・地域であると思います。それがこの感染症への本当の勝利です。どのようなピンチも成長、改善の絶好のチャンスとしていきましょう。